

臨大方針II路線にこそ

動労の未来がある

千葉地本一四〇〇名の飛躍をかけた決起と、臨大での闘う方針の満場一致の決定という勝利的地平は、動労内革マルとそれに追いつく反動分子による千葉地本への統制処分II組織破壊というよこしまな策動に一大痛打を浴せた。

そして、それにとどまらず、臨大方針をもって動労を私物化する革マルとそれに追いつく反動分子の「路線」つまり、「貨物安定宣言II反合闘争の放棄」「三里塚闘争への敵対」「水本デマ運動の持ち込み」「規約・規則II機関運営ルール無視の組織指導、フアッシュヨ的・暴力的組合支配」こそ動労を変質させるものであること。それは労働者の階級的利益を資本・当局に売り渡すばかりか、権力や当局の尖兵に転落させる「路線」であることを明らかにしたのである。

動労改革運動の勝利の鍵は

いま、われわれが、なすべきことは、第一に「一四〇〇組合員の団結」のもつ意義を再度認識し、うちかためることである。それは、動労大改革運動の前進にとって決定的な鍵である。全国で千葉地本の闘いを注目し、かつ「動労運動を糾さなければならぬ」、「セクト的、暴力的支配を許してはならない」と考える多くの組合員に勇気と自信を与え、奮気をうながすことになるのだ。

第二に、千葉地本がいま実践している闘いの路線的確信を深め、全組合員の共通の認識にすることである。

つまり第三二回地本臨大で、動労の変質を許さず、動労の戦闘的伝統を継承・発展させ、八〇年代労働運動の展望を切り開く、「三里塚連帯」「『貨物安定宣言』廃棄II反合闘争推進」「水本『究明する会』脱会」「動労の変質I反動的、セクト的組合私物化阻止」の旗を鮮明にした方針II闘う路線を全組合員が学習し、実践を通して検証し、更に豊富化してゆくことである。

第三二回地本臨大方針は、動労を真に闘う組合に再生するものである。そして、それにとどまらず、激動する八〇年代を展望し、労働運動のあるべき方向性をさし示す路線であるのだ。

危機を激化させる内外情勢

最近のわれわれをとりまく情勢を見よ。米帝を盟主とした戦後世界体制の「統一性」は、ベトナム侵略戦争の敗北とドル危機によって崩れさり、激動を増々深めている。米帝のドル防衛・引き締め政策は、日米間経済争闘戦を激化させている。こうした帝国主義間の矛盾か

ら、「社会主義国」ものがれることはできず、ソ連、中国、ベトナム、カンボジアの「社会主義国間戦争」をひきおこし、増々矛盾を拡大している。

かかるなかで、日帝をおそう世界危機と争闘戦の嵐をまともなうけ、危機脱出のために朝鮮・アジアへ侵略のほこ先をむけ、準備しているのだ。「中道」をよそおいながら大平自民党内閣は、「元号法制化攻撃」「有事立法攻撃」等々を強め、侵略戦争への攻撃を急ピッチに進めている。そして侵略と反動と結びついた労働者への経済攻撃の激化は、首切り、合理化、賃下げ、労働強化の攻撃をもって、いつさいの犠牲を労働者に転嫁している。

国鉄においても、「再建基本方針」にもとづき貨物合理化攻撃を五五・一〇〇〜五七・一〇〇にむけて強行せんとし、「運輸政策審議会」の答申をもって、国鉄営業線の半分に当る九千キロのローカル線合理化・国鉄分割II解体を資本の側から行い、同時に国鉄労働運動の解体を策しているのだ。今こそ、労働者II労働組合の決起が求められている。

いまこそ真に闘う労働運動を

かかる情勢下にあつて、動労内革マルとそれに追いつく反動分子が掲げる八〇年代は「冬の時代」と規定した「路線」では、動労四万七千の明日はないし、動労を死に至らしめるものである。

千葉地本はこの「路線」をきっぱりと拒否し、第三二回地本臨大方針こそが、動労の戦闘的伝統を継承・発展させ、真に闘う労働運動の構築の道であると確信する。

全ての組合員の皆さん。更に団結を強め、第三二回地本臨大方針を学習しよう!

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

32回地本臨大方針を学習しよう!

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!